

国鉄「分割・民営化」反対！三里塚二期工事阻止！

国民を侵略戦争 にかけたてる 中曾根の「教育臨調」を許すな



〜〜〜〜

二月一日、中曾根首相は、森文相と会談し「戦後教育の理念、制度の根本的改革にむけて臨時教育調査会（教育臨調）を設置すること」で合意しました。
政府は、開会中の特別国会に教育臨調設置法案を提出しようとしており、いよいよ全面的な教育反動攻撃が開始されようとしています。

〜〜〜〜

「教育臨調」の恐るべき内容

中曾根の教育反動攻撃は、「校内暴力や非行、激しい進学競争など教育の荒廃を克服するために六・三・三・四制に象徴される戦後教育の見直し」が不可欠」などと、日帝の教育政策の当然の帰結である教育荒廃を逆手にとり「戦後政治の総決算」をかけて戦後教育を理念的にも制度的にも全面解体し、反動的に再編するものとして打ち出されています。

この「教育臨調」は、「少年非行」の原因が現行の六・三・三・四制にあるとのベテランにもとづく「学制改革」、「入試制度見直し」、「偏差値教育是正」などの表向きの議論のうらで、実質上の中心をなす「教科書法制定」と「教員免許法改悪」が企まれているのです。

「教科書法」は、教科書を文部省、教育委員会が掌握し、事実上の国定教科書化することで教育の管理、統制を強めようとするものです。

「教員免許法」は、一般大学でも教員免許がとれる現行の開放制を廃止し、教育系大学を一般大学から切り離して旧制師範学校の管理下におくとともに、免許を三段階とし、校長に上級免許への抜擢権をもたせることで教育労働者の国家統制・労働組合運動破壊を狙っています。

教育の露骨な国家統制 侵略総動員体制を狙うもの

中曾根は昨年の暮れまで、教育改革について、「一月中に中央教育審議会（中教審）に諮問する」と繰り返し述べ、中教審を主体にした教育改革を主張していたにもかかわらず、急遽、「内閣全体で取り組む課題」として、首相の諮問機関Ⅱ「教育臨調設置」に踏み切った理由は何なのでしょか。

今日、日米間矛盾・争闘戦の激化は日帝の政治危機、階級支配の危機と合いまって体制的危機を深刻化させています。

日帝は、こうした危機を八四年度予算案での防衛費の異状突出にみられるすさまじい軍拡と戦後的意識である「平和と民主主義」思想の破壊Ⅱ戦後教育の破壊とその反動的再編成による、暴力的

突破でのりきろうとしています。

それは軍事大国化・改憲であり、侵略戦争に国民総動員するための「国家主義・民族排外主義・天皇制イデオロギー」を支配者の利益のためにのみふきこもうとするものこそ、反動・中曾根直轄による「教育臨調」なのです。

人民の怒りで中曾根内閣を打倒しよう

八二年、日本の教科書の内容が露骨な侵略主義・民族排外主義であることが、アジア人民の激しい怒りと糾弾をうけました。文部省・自民党は大打撃をうけつつも「侵略の史実とその表現」についてほんの口先で「反省し、記述を改める」とした一方で「教科書の国家検定Ⅱ国家統制は当然のことである」と、より一層反動的に居直ってきました。

それは来年度から使用される高校教科書に対する検定の反動的強化をみれば明らかです。

すなわち、「現代社会」では「日本の軍事費負担」との記述を「防衛費」に書き直しを命じるなど、三年前の検定ではパスした記述の書き直しが求められています。具体的には、明治憲法での社会保障は弱いとの記述に対し、「当時としては大きな意味があった」などと評価し、国家主義的価値観をおしつけています。

「日本史」でも、南京大虐殺の犠牲者数について「諸説がある」などと、文部省によるまき返しが行われているのです。

自民党は、教育問題に対して「戦後の学校教育は、国家の意義や重要性について関心を払わなかったため、国に対する国民の意識が低い」と批判し、教育三法など何度も戦後教育の破壊を進めてきました。

「教育臨調」の真の狙いこそ、支配階級のもとに教育を管理・統制し、軍国主義教育の復活によりふたたび日本人民をアジア侵略にかりたてようとするものです。

「国家百年の大計」といわれる教育が、臨調同様、国民の手のとどかない少数の委員の密室の審議で決定され、破壊されることは絶対に許すことができません。そのためには、われわれは中曾根内閣打倒をちかとりねばなりません。

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ！